

ストックオプションを付けなければ来ないとか、 prestigeの非常に高い研究機関という位置づけでないと、家族を連れて、わざわざトップレベルの研究者が来ません。そういう意味では、私どもの所で仕事をする事自体が次のキャリアアップにつながると意識してもらえるように、環境もペイメントもステータスも与えます。それは、日本の中ではかなり無理を伴っています。試行的な所もかなりありますが、そういう意味では、日本は、下にございますように、研究者に限らず、マーケティングのプロの方においても、本人は良いのですが、ご家族がカルチャーショックで長く生活できないという状況。それに比べれば、米国やヨーロッパにおいては、移民の国であるから十分生活出来る。そういう所は大きく感じます。

また、わが国においては、ここに言い尽くしてあるかどうかわかりませんが、いまな

図92：産業界における情報通信技術に関する国内外格差

Yokohama National University
Faculty of Engineering
ECHO Laboratory

産業界における情報通信技術に関する国内外格差

A. 欧米(主に米国)

1. 異業種連携、業界再編、国際アライアンス
2. **市場経済誘導型研究開発、新規コア技術とIPR**
3. ベンチャーカンパニー化、優遇税制、個人投資家
4. **ストックオプションとキャリアアップ、Ph.D.とMBA**
5. 外国人雇用、雇用ボーダレス

B. 日本

1. **縦割り行政とお出入り企業、競合多社**
2. 大量製造技術中心研究開発と特許の量産化
3. 大企業の系列解体と企業内カンパニー化
4. 年功序列脱皮と中途採用増加、エンジニア社長
5. **外国人における言語・生活様式障壁**

15

おビューロクラット、あるいは、私自身、総務省、経済産業省、厚生労働省の仕事をしておりますが、お出入り企業という大きな筋書きがあります。これは決して悪いとは思っていない部分もあります。むしろ、先ほどちょっと批判的に申し上げました米国式の非常にフラットな、オープンなやり方に対抗する要素として、新たに見直す事も可能かもしれないと思っています。

特許においても、基本特許だけ押さえようというものに対して、特許の量産という事

で対抗するという流れですね。大部分の大企業においてはそういう意見があります。

このあたりは、先ほどグローバルイゼーションという事で申し上げて、いま、同じものがもう一度出ている訳ですが、産業界において、こういうキーワードを挙げてみた訳です。

片や大学においては、東京大学のような特殊な大学は別と考えますと、わが国の大多数の大学はこういう状況にある。具体的にいうと、昔からの大学の固定的な序列化があつて、これはあくまで受験生や受験生の親御さんの視点で見ていると思います。

図93：大学における情報通信技術に関する国内外格差

Yokohama National University
Department of Electrical and Computer Engineering
Kohso Laboratory

大学における情報通信技術に関する国内外格差

A. 欧米(主に米国)

1. 世界から集まる優秀な教官・学生、一攫千金
2. **成果・能力の公正な評価、効率的議決**
3. 設備とスタッフの充実
4. テニアーとサバティカル
5. **教官・院生起業化、成果主体の本格産学共同**
6. 情報科学分野の初等教育から先端研究開発優勢
7. **世界的視野と明確な将来展望、精神的成熟**

B. 日本

1. **偏差値中心入試と受験産業、大学の固定的序列化**
2. 留学生の言葉、生活習慣障壁、就職不利
3. **年功序列と悪平等、全員合議制の非効率的審議**
4. 事務職不足、教官の雑用増
5. 過多な大学、国立大学民営化、研究大学と教育大学
6. IT分野の教育システム不完全と教員不足
7. **日本人学生の国際視野や危機意識欠如、精神障害**

16

産業界では、どの大学を出たという事は全く意味をなさない。既にそういう時期ではありますが、大学の入り口の段階ではいまなおこれが生きている。それどころか、世界のトップ大学という事で、文科省がさらに 30 大学を序列化し直そうという動きがありますが、それにしても過去の影響がもちろんある。我々にとってはむしろチャンスであり、非常に良い研究を進めている所は、この機に、と考えて良いかもしれません。

私ども教官側から見ますと、設備やスタッフの充実度。また、教官自身、長く仕事をしていると、もう一度充電したい時期があるわけで、西欧の大学では、サバティカルと

いう事で、5～6年単位で、1年以上程度の給与を保障した上で産業界に身を投じる事も許されている。そういうあたりの事ですね。それから、日本もそうなりつつはありますけれども、教官および大学院生が、アントレプレナリーという事で、起業化の最先端を担っている所はかなり限定的であるという事ですね。物の決め方においても、いまなお全員合議制の非常に効率の悪い研究、デシジョンの仕方、運営の仕方をしています。

特に悲しい事は、大学生自身の世界観が明らかに違う。むしろ日本人が例外的で、先進国、開発途上国、いずれの場合も、意味は少しずつ違いますが、世界をいつも意識した、かつ、自分の人生に対して責任を持ったデシジョンが出来るという所が大きな違いと感じております。

図94：情報通信技術（IT）で日本は生き残れるのか（1）

Yokohama National University
Department of Electrical and Computer Engineering
Kohn Laboratory

情報通信技術(IT)で日本は生き残れるのか。

産学官が行うべき役割

官： 国のグランドデザイン
経済政策と国際戦略

産： 新しい企業価値の創造
産業と雇用の創出

学： 世界でリーダーシップを発揮できる人材育成
先端技術成果の社会還元

18

では、大学や産業界は何をして行けるのだろうか。これは当たり前の事ではありますが、当たり前の事ができていない。

お国に関して言えば、きちんとしたグランドデザイン、どういう国をつくるのかというビジョンが大きく描けていない。あるいは、描いても絵に描いた餅で、実行に移せないという実態。そのあたりを何とか打開しなくてははいけません。